

【概況】

●3日、米労働省が朝方発表した4月の雇用統計では、景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数が前月比17万5000人増と、伸びは前月の31万5000人増から減速し、市場予想も下回った。平均時給は前年同月比3.9%上昇(前月4.1%上昇)。労働市場の過熱感緩和を示唆する内容を受け、米連邦準備制度理事会(FRB)が年内の利下げに動くとの観測が台頭した。一方で、景気鈍化に伴うエネルギーの需要懸念が浮上し、原油売りが活発化。さらに、米サプライ管理協会(ISM)が公表した4月のサービス業購買担当者景況指数(PMI)が49.4と予想から下振れし、サービス業の景況拡大と縮小の分岐点である50を2022年12月以来初めて下回ったため、相場は78.11ドルへ続落しました。

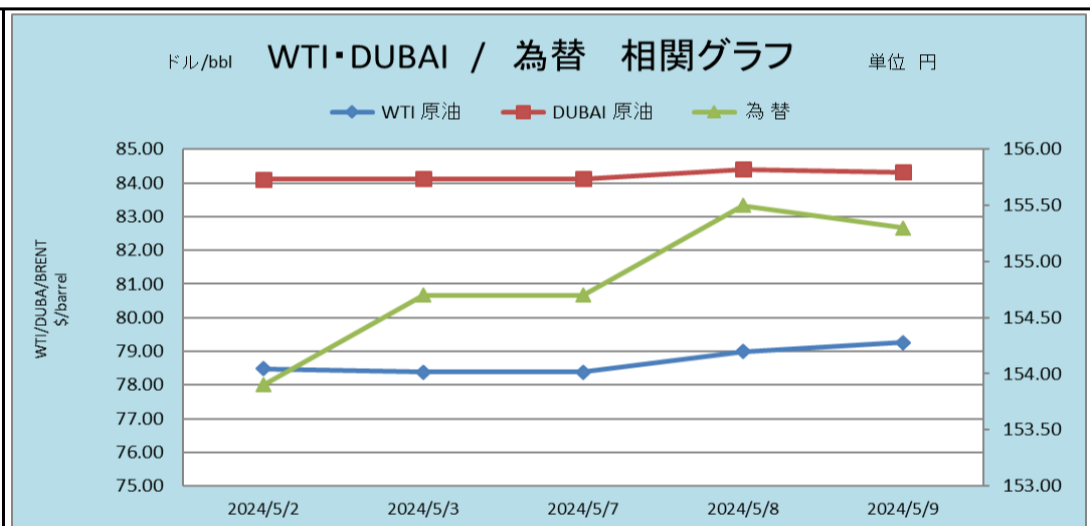
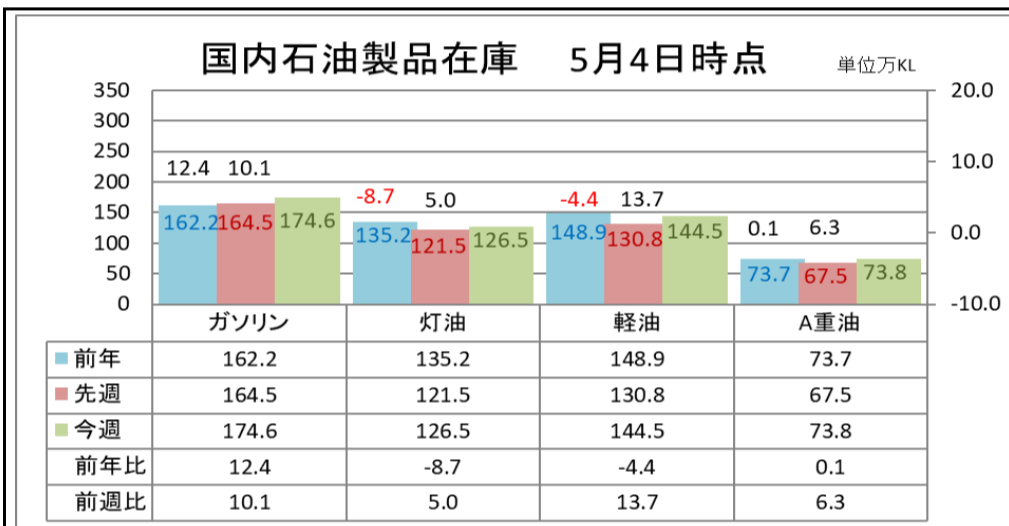
●6日、イスラム組織ハマスは5日、イスラエルとの戦闘休止および人質解放を巡る間接交渉を仲介国のエジプトで行った。しかし、協議は難航したとみられ、イスラエルはハマスが休戦案を拒否したと米国に通達。ハマス掃討に向け、週内にもガザ最南部ラファに地上侵攻する準備を進めているとした。計画が強行されればパレスチナを支持する周辺国の反発は必至で、紛争が一帯に拡大しかねないとの警戒感が改めて台頭。供給混乱リスクをにらんだ買い戻しが先行し相場は78.48ドルへ反発しました。

●7日、間接交渉でハマスは6日、ガザで交戦するイスラエルとの休戦案に同意したと発表した。ただ、イスラエル首相府は声明で、ハマスが同意した案は「イスラエルの根本的な要求から程遠い」と主張。イスラエル軍は7日、ガザ最南部ラファ東部で限定的な地上戦を実施し、エジプトとガザの境界にあるラファ検問所を掌握するなどしたと発表した。停戦交渉の動きをにらんで強弱感が対立し相場は78.38ドルへ小幅反落しました。

●8日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した3日までの1週間の米石油在庫統計によると、原油在庫は前週比1140万バレル減となり、取り崩し幅は市場予想(110万バレル減=ロイター通信調べ)を上回った。ガソリン在庫は90万バレル増、ディステレート(留出油)は60万バレル増と、石油製品の在庫は予想に反する積み増しとなったものの、統計発表後は需給逼迫懸念が浮上し、相場は78.99ドルへ反発しました。

●9日、中国税関総署が9日公表した統計によると、4月の同国の原油輸入は前年同月比5.45%増の4472万トンとなった。世界最大の原油輸入国である中国の需要拡大への期待が広がり、原油買いが先行。米エネルギー情報局(EIA)が8日公表した週間在庫統計(3日までの1週間)では、米原油在庫が前週比140万バレル減と予想(110万バレル減=ロイター通信調べ)を上回る取り崩しとなり、需給引き締め観測が再燃し、相場は79.26ドルへ続伸しました。

5月10日 16:00現在 WTI原油 79.89ドル 為替 1ドル 156.70円



次回元売変動予測 5/16~

品名	変動予測	元売変動予測
ガソリン	↑	+1.1~+1.6
灯油	↑	+1.1~+1.6
軽油	↑	+1.1~+1.6
A重油	↑	+1.1~+1.6
L S A	↑	+1.1~+1.6

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「▲3.0円」、補助金は、「-28.3円・60%」、都合「▲1.2円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの7日時点の小売価格平均は174.7円となっております。

《5月16日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「▲2.0円~▲1.5円」、激変緩和補助金は「-25.1円・60%」の見込みで、都合「1.1円~1.6円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「▲2.0円~▲1.5円」
 ※激変緩和補助金「-25.2円」前週比+3.1円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <グリーンなウイスキー、サントリーが実用化に挑戦—東ガスと水素活用>

サントリーホールディングス(HD)傘下で酒類事業を手掛けるサントリーは11日、都市ガスの代わりに水素を活用して蒸溜したグリーンなウイスキーの実用化を目指すを発表した。

発表によると、東京ガスなどと共同で、山崎蒸溜所(大阪府島本町)内にある小型施設で水素を燃焼してウイスキー製造の重要工程である蒸溜を行う実証実験にこのたび成功した。今後は白州蒸溜所(山梨県北杜市)で製造設備規模での導入を目指すという。地球温暖化への懸念が高まる中、水素は燃焼時に二酸化炭素(CO2)が発生しないことから次世代エネルギーとして期待が高まっている。国際エネルギー機関(IEA)によると、世界の水素需要は2030年までに1億1500万トンに増加すると見込まれており、日本を含め世界各国で利用拡大に向けた動きが活発化している。サントリーのスピリッツ生産部の小山泰弘部長によると、ウイスキーの蒸溜方法は直火で加熱する「直火蒸溜」と蒸気を用いた「間接蒸溜」の2つに分けられる。サントリーの山崎・白州蒸溜所の一部工程では1000度以上の炎を直接蒸溜釜に当てて加熱する「直火蒸溜」が採用されており、「これによりコクがあり力強い味わいのニューポット(ウイスキーの原液)を作り出すことができる」と説明した。

サントリーの調べによると、1キロリットル以上の蒸溜釜で「直火蒸溜」を水素で行った実証実験で成功したのは世界初だという。ウイスキーの本場スコットランドでも水素を使った脱炭素化の取り組みが行われている。